

自己点検・評価について

① プログラムの自己点検・評価を行う体制

情報学部教務委員会

(責任者名)

大橋洸太郎

 (役職名)

情報学部教務委員長

② 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	教育支援課にて本プログラムを構成する授業の履修者数や成績の管理を行っている。これらのデータについては情報学部教務委員会にて共有し、本プログラムの評価や改善に活用している。
学修成果	情報学部教務委員会にて、本プログラムに関わる授業の履修・修得状況(成績評価を含む)を確認する。これらのデータをもとに学修成果を検討している。
学生アンケート等を通じた学生の 内容の理解度	本プログラムに関する授業について、学期末に実施する授業アンケート、成績評価を参考に、学生の理解度を分析する。
学生アンケート等を通じた後輩等 他の学生への推奨度	本プログラムに関する授業について、学期末に実施する授業アンケートの回答を参考に、他の学生への履修の推奨度について分析する。
全学的な履修者数、履修率向上 に向けた計画の達成・進捗状況	4月に行われるガイダンスや、履修登録時期においてポータルサイトを用いた周知などを行い、履修者数・履修率の向上を図っている。

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学外からの視点	
<p>教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価</p>	<p>今後、本プログラムを評価・改善するために、修了した卒業生の就職先等を分析する。</p>
<p>産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見</p>	<p>今後、AIやデータ解析に関わる企業などからのヒアリングなどを行い、本プログラムの内容や実施方法について改善を図る。</p>
<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>Society5.0時代におけるデータサイエンスの活用事例、ビッグデータの活用事例、AIの応用事例などをとりあげることで、数理・データサイエンス・AIを学び、社会で実践することの意義を理解させている、同時に、活用事例、応用事例をできる限り取り上げることで、データサイエンスやAIを学ぶ楽しさを促進している。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p> <p>※社会の変化や生成AI等の技術の発展を踏まえて教育内容を継続的に見直すなど、より教育効果の高まる授業内容・方法とするための取組や仕組みについても該当があれば記載</p>	<p>学期末に実施する授業アンケートを参考に、学生にとって「わかりやすい」授業になっているかどうかを検討する。必要に応じて授業内容および実施方法を見直しを検討している。</p>